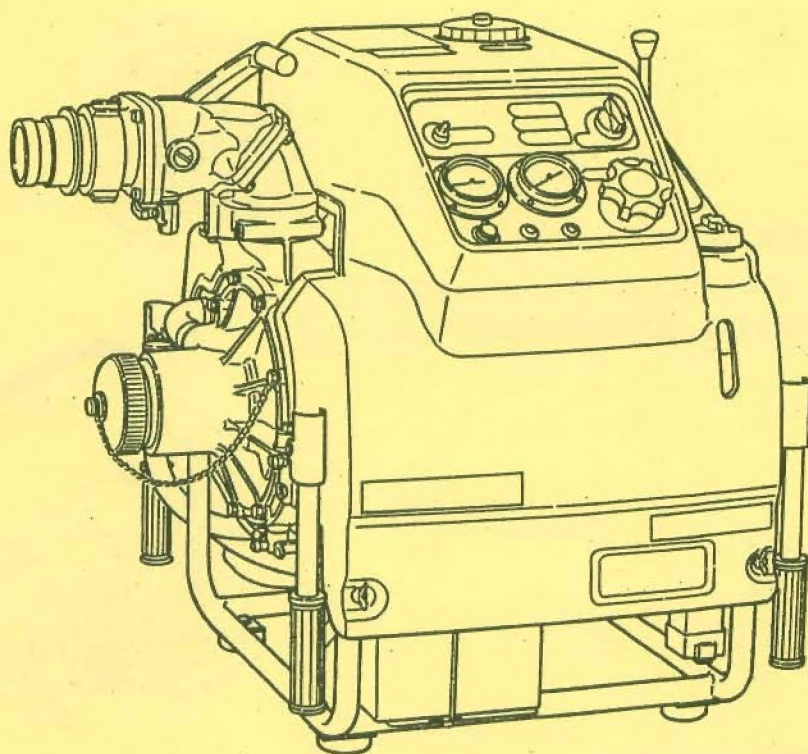


自動中継送水機能付き消防ポンプ

《操作マニュアル》

VC72AS-R/VC62AS-R



 トーハツ株式会社

この操作マニュアルは、自動中継送水機能付き消防ポンプ[VC72AS-R/VC62AS-R]
で自動中継送水運転を行う際の操作方法をまとめたものです。

基本的な消防ポンプの取扱いについては、別冊『トーハツ消防ポンプ取扱説明書』を参照し
て下さい。

1. 自動中継運転の方法

本ポンプを中継送水の先(受水側)ポンプとして使用する場合は、以下の要領に従って
下さい。

1) 運転前の点検

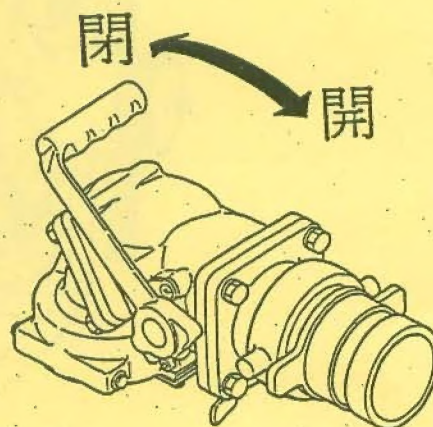
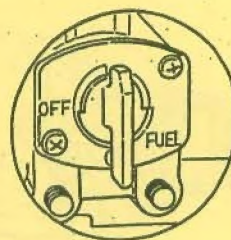
●燃料コック

コックのレバーを上げて「開」にする。



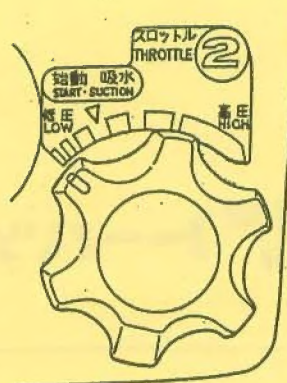
●放水弁ハンドル

ハンドルを「開」側に倒し、放水弁を開く。
(運転中は、常時放水弁は開いておくこと。)



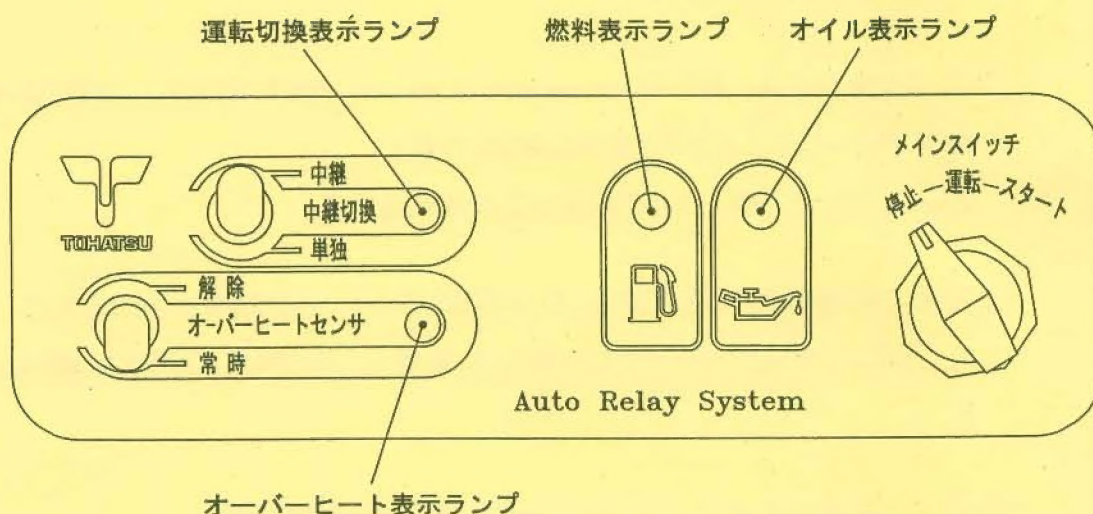
●スロットルダイヤル

最低圧位置にする。



2) 運転準備

オペレーションパネル



①メインスイッチを「運転」位置まで回す。

運転位置に切換えると、約1秒間全てのランプが点灯します。

もし、燃料又はオイル表示ランプが点灯したままでしたら、

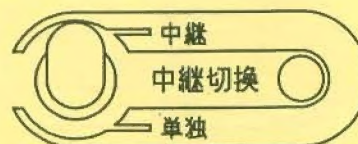
下記のとおり対応して下さい。

〈燃料ランプ点灯〉:自動車用レギュラーガソリンを燃料タンク
に補給する。

〈オイルランプ点灯〉:2サイクルエンジンオイルをオイルタンク
に補給する。

②運転切換スイッチを「中継」側に倒す。

中継運転表示ランプが点灯します。



以上で中継送水運転の準備は完了しました。後は、元(送水側)ポンプから水が送られてくると自動的にエンジンが始動し、運転を始めます。又、停止も自動で行われます。

3) 始動・停止

①元ポンプからの送水が中継ポンプに到達し、真空連成計が0.1MPa以上になるとエンジンが自動的に始動します。

②エンジン始動後は、電子スロットルによりエンジンの回転数を調整し、真空連成計が約0.1MPaになるように自動的に制御されます。
従って、スロットルダイヤルでの圧力調整は不要です。

③元ポンプが運転を中止してから、約15秒後にエンジンは自動的に停止します。
尚、元ポンプの運転が再開された場合は、前項①、②の操作を自動的に繰り返します。

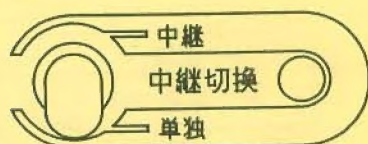
④エンジン自動停止後は、メインスイッチを「停止」位置まで回す。

【注意】やむをえずエンジンを緊急停止する場合は、メインスイッチを「停止」位置まで回して下さい。

2. 単独運転の方法

自動中継送水によらないポンプ単独運転又は、自動中継送水運転不能時の手動運転の場合は、以下の操作を行って下さい。

1) 運転切換えスイッチを「単独」側に倒す。



2) 運転方法については、別冊『トーハツ消防ポンプ取り扱い説明書』を参照下さい。

3. 安全機構について

- 1) オーバーヒートセンサー: 冷却水不足によるエンジン焼付き防止の為、エンジンを自動的に停止させます。対処方法については、別冊『トーハツ消防ポンプ取扱説明書』を参照して下さい。
- 2) 吐出圧力自動制御: 安全のため吐出圧力が約1.0MPa以上にならないように電子スロットルで自動制御されています。
(ただし、中継運転時のみ)
- 3) オートパワーオフ: メインスイッチを切り忘れた場合のバッテリー上がり防止のため、中継又は、単独運転のどちらでもエンジンが停止してから、約30分後に自動的に操作電源が切れて、バッテリーの消耗を抑えます。
- 4) 始動不能: 自動中継運転で自動始動しない場合は、運転切換表示ランプが点滅し始動不能であることを表示します。

【注 意】自動中継運転では、エンジン始動時セルスタータが「5秒間ON－3秒間OFF」のサイクルを6回繰り返します。

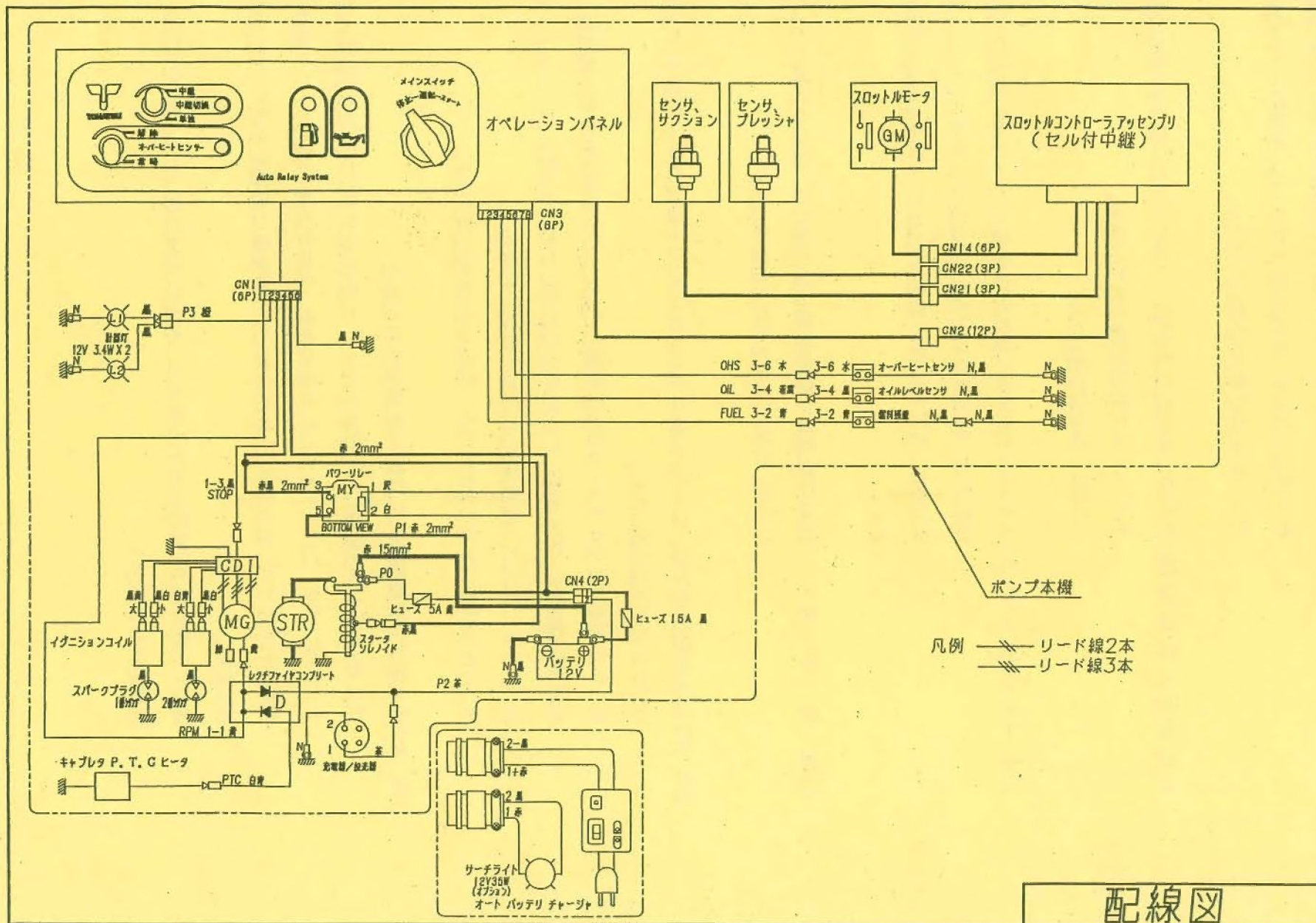
何らかの原因で、セルスタータが6回作動してもエンジンが始動できない場合は、中継運転表示ランプが点滅して始動不能を表示します。この場合、メインスイッチをOFF(停止)にして、始動不能の原因に対処して下さい。

再びON(運転)にするとリセットされ、自動中継運転に戻ります。

【注 意】消火栓より直接給水して自動中継運転を行う場合

消火栓のバルブを全開にして給水を行うと、大量の水がポンプ側に送り込まれます。本ポンプは、この送り込まれた大量の水を、そのまま先へ送水するよう自動運転されますので、放水側の圧力が過大となり筒先員に危害を及ぼす危険性があります。

従って、消火栓より直接給水する場合は、水量に充分注意して消火栓バルブの開閉を行って下さい。



配線図